

Oracle 10gとHarmonious Computingを 融合し、新たな付加価値を顧客に提供する



株式会社 日立製作所
ソフトウェア事業部
プラットフォームソフトウェア本部 本部長
藤崎 一博 氏

強固なパートナーシップに基づく 製品・サービスにおける数々の実績

日立によるOracle製品への取り組みは、1991年に両者間で結ばれた販売協力契約の締結にまでさかのぼる。以降、1998年には、日立・オラクルソリューションセンタを、2000年には日立のストレージ製品とOracle9i Databaseの連携によるソリューションの検証を行う日立・オラクルSANソリューションテクノロジーセンタ(SSTC)を設立し、パートナー関係を拡充。具体的には、Oracleの全製品について出荷、サポートを行うことで、国内の数々の顧客システムにおいて多大な実績を築き上げてきた。

「こうした日立の実績は、2003年に、

Oracle製品の出荷からサポート、ストレージやミドルウェアといった自社製品との連携機能の強化など、日立はオラクル社との間に強力なパートナーシップ関係を構築してきた。今回発表されたOracle 10gでもそのスタンスは変わらない。同社では、サービスプラットフォームコンセプトHarmonious Computing(ハーモニアスコンピューティング)とOracle 10gの高度な融合を図るとともに、ハードウェア/ソフトウェアを含めた新たな付加価値をマルチプラットフォーム対応で提供していくという。

Oracle製品を活用して顧客のビジネスの発展に貢献したパートナーに対してOracleが授与するOracle Awardの『Excellent Partner』を受賞していることにも現れています」と日立の藤崎 一博氏は語る。

さらに、両社は開発の局面においても戦略的なパートナーシップの強化を継続的に図ってきた。それは、日立が自社のハードウェア/ソフトウェア製品に対し、Oracle製品に特化した強力な連携機能の数々を盛り込んできたことから伺える。例えば、国内シェアNo.1*を誇るストレージ製品「SANRISEシリーズ」や同じく運用管理ソフトとして多数の実績を誇る「JP1」といったミドルウェア製品などにも、高度なOracleサポート機能を搭載しているのだ。そして、これらの機能が、Oracle製品を用いたシステム提案/構築という同社のソリューションサービスのうえで大

きなアドバンテージとなっているのである。

ハードウェア/ソフトウェアを含む総合力で Oracle 10gに新たな付加価値を提供

日立は、今日発生している様々な課題を解決するため、システム変革のコンセプトとしてHarmonious Computingを提唱している。そのコンセプトが描き出すシステム像の本質ともいえるのが「ITリソースの仮想化」や「ポリシーベースの自動運用」などである。これらは、Oracle 10gにおける「エンタープライズ・グリッド」の考え方とまさに軌を一にするものだ。同時に、オラクル社がOracle 10gにおいて推進しているマルチプラットフォーム対応というスタンスも、以前より日立が提供するソリューションビジネスの根幹にあるものである。

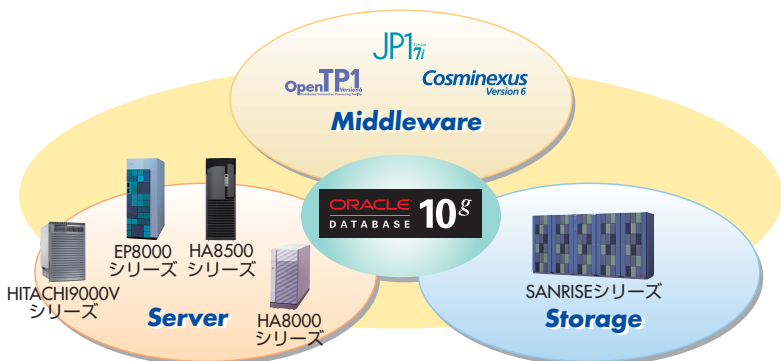
「日立は、これまでの実績をベースに、Oracle 10gが提供する新機能とHarmonious Computingとの融合をはかります。そして、新たな付加価値を持つマルチプラットフォーム対応のソリューションとして、お客さまに提供していくつもりです」と藤崎氏は今後の方向性をこのように語った。

お問い合わせ先

HITACHI
Inspire the Next

株式会社 日立製作所 ソフトウェア事業部
〒140-8573 東京都品川区南大井六丁目26番2号
大森ベルポートA館
TEL:03-541-2291 FAX:03-5471-2056
URL: <http://www.hitachi.co.jp/soft/oracle/>
E-mail: faq_ora@itg.hitachi.co.jp

■Oracle 10gと強力な連携機能を持つ日立の製品群



日立では自社のサーバ、ストレージといったハードウェア、あるいはJP1やOpenTP1といったミドルウェア、各種パッケージソフトウェアなどとOracle 10gの連携を強化し、トータルなソリューションとして提供する。